

# 6章 代読ボランティアの事例

## ——生駒市図書館の取り組み

生駒市図書館では、知的障害者の読書推進と、誰もが利用しやすい図書館をめざし代読サービスに取り組んでいます。今回、ボランティアと協働して知的障害者への読書支援サービスを開始することになりましたので、当館の事例を報告します。

### 1. サービス開始までの概略

準備から実際にサービスを開始するまでのステップをまとめると下図のようになります。それぞれの過程について、順を追って説明していきます。

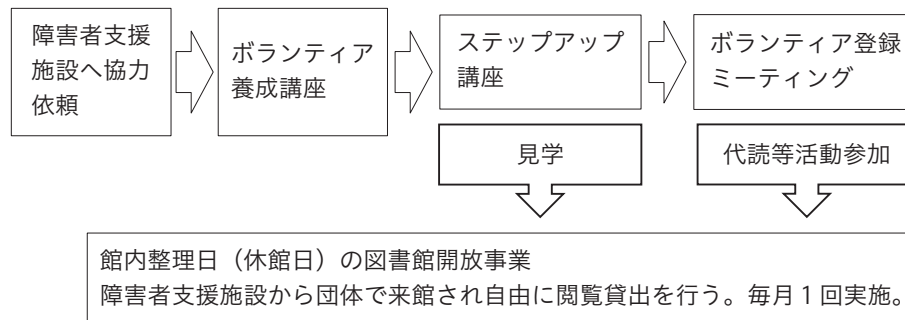


図 6-1 準備からサービス開始までのステップ

### 2. ボランティアの養成について

#### (1) 障害者支援施設へ協力依頼

知的障害者への読書支援サービスは、図書館単独ではとてもできないため施設との協働が必須であること、また、ボランティア養成講座の代読実習で、知的障害者に複数人来ていただく必要があることから、図書館とともに活動してもらえる施設を探すことになりました。しかし、施設側の事情は厳しく、限られた時間・人員・予算の中で一歩踏み出そうと思ってくださるところはなかなか現れませんでした。図書館は、障害者支援施設とふだんから接点がないため、理解し信頼してもらうのは難しいと痛感しました。ようやく、1

つの施設と、文字どおり膝を突き合わせてじっくり半日ほどお互いの思いを語りあう機会があり、その結果、快諾いただくことができました。

この話し合いの中で、施設には本が好きな知的障害者は多く、また社会参加の場にもなるということで、図書館の理解があるならばすぐにでも図書館利用をしたいという思いがあるとわかりました。そこで、図書館の館内整理日に、当該施設限定で図書館を開放し、団体で図書館利用するというサービスをやってみようということが決まりました。図書館は休館していますが整理作業はしていますので多少バタバタしていますが、一般利用者がいないため気兼ねなく利用していただけます。また、代読サービスの実習までに半年ほどありましたので、その間に、知的障害者、施設のスタッフが図書館に慣れてもらえるというメリットもありました。

## (2) 館内整理日（休館日）の図書館開放事業

早速、障害者支援施設から、団体での図書館利用が開始されました。

毎月の館内整理日に、20～30人の知的障害者と、付き添いのスタッフが10人程度の計30～40人の団体で図書館に来館され、本を読んだり、絵本の読み聞かせを楽しんだりして1時間ほど過ごされます。希望者には本の貸出もします。この事業は、その後ボランティアの活動場所にもなり、知的障害者の読書支援サポートを円滑に推進することができました。

## (3) ボランティア養成講座

「知的障がい者支援のための読書サポートボランティア講座」と題し、1日2講座×3日の合計6講座を実施しました。受講生募集のPRとしては、当市広報のほか、Twitterや図書館公式HPなどでお知らせするとともに、市内公共施設や関係団体でのチラシ配布や、障がい福祉課、福祉センターに事業説明し、関係者への周知を依頼しました。図書館で障害者サービスに携わっておられる音訳ボランティアにもお声がけしました。その結果36人の応募があり定員20人を大きく上回りました。受講実績についても、全回ほぼ欠席無しで、意欲的な市民が集まっていたと思います。受講生の属性としては、図書館や障害者・高齢者事業所等のボランティアが最も多く（20名）、当事者の家族（3名）、障害者関係事業所職員（1名）などでした。また、21名が、これまでに何らかの形で知的障害者と関わったことがありました。

## (4) 実習について

ボランティア養成講座では、2つの実習が行われました（表6-1の4・6）。4番の「読み聞かせ」は、座学のあと、受講者が聞き手、読み手に分れて実際に読み聞かせをしました。もう1つは、6番「代読の実習」ですが、受講生4人につき、1人の知的障害者が入ったグループを9つ作り、各グループで実際に本を手にとり、順番に代読の実習を



図 6-2 養成講座の様子

表 6-1 知的障がい者支援のための読書サポートボランティア養成講座プログラム

番号	内容	講師（開催時の肩書）	時間
1	図書館の障がい者サービスと知的障がい者	日本図書館協会障害者サービス委員会関西委員 山田 友香氏	90分
2	知的障がい者にとってわかりやすい本と視聴覚資料	新潟リハビリテーション大学教授 藤澤 和子氏	90分
3	知的障がい者との関わり方	（社福）大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所 客員研究員 左古 久代氏	90分
4	知的障がい者への本の紹介と読み聞かせ（実習付き）	大阪市立島之内図書館ボランティア 絵本の会島之内 釣島 恭子氏	90分
5	知的障がい者への代読	ダウン症研究所 吉田 くすほみ氏	90分
6	知的障がい者への代読の実習	同上	90分

するというものでした。実習会場は、9グループがお互いの声の聞こえない（できれば視野にも入らない）距離に机をおく必要があったため、かなりの広さが必要でした。そのため、あえて、休館日（月曜日）の図書館内を会場とすることで、のびのびと実習をすることができました。9人の知的障害者は本の好きな希望者ということで、施設スタッフとともに来館され、各グループで受講生と本を楽しんでもらいました。

### (5) 館内整理日開故事業の見学，ステップアップ講習の実施

養成講座の修了生が、いきなり現場で活動するのは不安ですので、その前に、①館内整理日の開故事業の見学、②代読ステップアップ講座を実施しました。応募状況は、見学は18名、代読ステップアップ講座は21名の応募がありました。

館内整理日の図書館開故事業の見学では、「見るだけ」という受け身の内容ではなく、実際に知的障害者と関わって読書のサポートをしてもらいました。知的障害者がいつもどおりに本を読んだり、話したりしている中で、30分おきに2回の絵本の読み聞かせと、代読を希望される知的障害者には、順番を決めて代読の部屋（参考資料室等隔離された場所を活用）で好きな本を楽しんでもらいました。講習のときとは違って、受講生は自主的に動く必要があったため、かなり高難易度な内容であったと思います。

ステップアップ講習では、サポート講座の代読の講師である吉田くすほみ氏から代読で気をつけるところ等について再確認するための講義を受けた後、比較的重度の当事者への代読の実習をしていただきました。施設スタッフのサポートもありましたが、どうしたらよいかわからなくなり困っている受講生もおられました。しかし辞めたいという意見はなく、むしろ、お互いの理解をもっと深めたいという感想や、回数を重ねることが必要という前向きな意見が多くありました。

最終的に代読のボランティア登録されたのは25名となり、予想以上に多くのボランティアが誕生したことはとても喜ばしいことでした。

## 3. いよいよボランティア活動開始

### (1) 活動内容を決めるためミーティングを実施

今後の活動内容をどうするか、図書館とボランティアが集まり話し合いを行いました。図書館開故事業で代読や読み聞かせのサービスを実施することが決まったほか、他の施設も対象にしてはどうか、ボランティアが施設へ出向いていってはどうかというアイデアが出されました。

あわせて、障害者支援施設のスタッフから具体的なレクチャー（施設の説明、知的障害者の日常や具体的な特性など）をしてもらいました。今後、実際に活動するときに役立つ情報をしっかりと学ぶことができました。

### (2) 館内整理日（休館日）の図書館開故事業での活動

活動日初日は、知的障害者2、3人とボランティア2人程度を1つのグループとし施設のスタッフがサポートしながら、図書館を案内したり、希望があれば代読するという形にしました。絵本の読み聞かせ担当は別に決めておいて、途中で1回、10分程度実施し、聞きたい人だけ集まるということにしました。ボランティアに本を読んでほしい知的障害者は、自然とボランティアがその意を汲んで代読サービスを行っていたようです。読み聞



図6-3 児童室で絵本の読み聞かせ



図6-4 参考資料室で代読を実施

かせの時間になったら、ボランティアや施設スタッフ、図書館職員が声を掛けて所定の場所に集まってもらうなど、実習や見学で慣れておられることも多く、図書館での読書を楽しんでいただけたと思います。

後日施設から、代読の希望がたいへん多く、できればボランティアにもっとたくさん来ていただきたいという依頼がありました。ともに楽しもうと真摯に取り組んでくださったボランティアの気持ちが知的障害者に通じたのではないかと思います。

まだ図書館開放事業が始まったばかりですので、今後やり方については柔軟に考えて変更、対応していきたいと考えています。

#### 4. アンケートから見えること

この取り組みのなかで、①養成講座受講生、②協力施設、③ボランティア登録者に対してアンケートを実施しましたので、それぞれの思いをご紹介します。

##### ①養成講座受講生（アンケート提出33人）

受講の動機としては、26人が「ボランティア活動に活かしたい」と最も多く、次いで「知識を得たい」17人で、高い意欲がうかがえます。講座の内容については、よく理解できた、理解できた29人で、講座全体の組み立てや、順番がよかった、実習があつてよかったなどの意見がありました。「知的障害者への読書支援について関心が深まったか」という質問に対しては、知的障害者に対する読書支援の必要性に気づいたという意見や、当事者との関わりを増やし理解を深めていきたい、代読が楽しかったという積極的な意見が多くありました。当事者の親族の参加者からは、多くの人に関心をもってもらえてよかったという意見もありました。

##### ②協力施設

図書館開放事業は、知的障害者同士でコミュニケーションを取る場になっており図書館で会えることが楽しみとなっている、家族の間で図書館訪問が話題となり自宅での会話が



増えた等、本を読む楽しみ以外に、利用者の生活にも好影響があったという報告をいただいています。また、施設が配慮している点として、本や備品の取り扱いや、館内でのマナー、貸出冊数の管理等をあげられました。障害のある人と実際に関わってもらうことで、お互いを理解し、助け合える関係性を築き、施設として今後もできるだけ前向きに図書館に協力していきたいとのことでした。また、ボランティアは図書館職員とは違うエプロンを着用していただくという意見もいただいています。

### ③ボランティア登録者（アンケート提出 19人）

もっと知りたくなった、当事者の特性を個別に知りたいという意欲的な意見が多く見られました。13人が何らかの形ですでにボランティア活動をしておられ、今回参加された動機としては社会貢献12票、生きがいづくり12票、友達づくり3票、本が好き6票で、社会の課題解決をめざしておられる方が多いと感じました。そのため、代読や読み聞かせのスキルのほか、当事者との関わりや図書館利用、知的障害者を取り巻く社会的現状などについてさらに学びたい、知りたいという思いや、当事者に少しでも楽しく過ごしてもらいたい、相互理解を深めたいという感想が多くありました。

## 5. 今後の活動の広がり

比較的順調に活動が開始され、またボランティアにも活動拡大の気持ちがあったので、市内の他施設に見学に来てみないかと働きかけてみたところ、2施設から手が挙がりました。現在次の取り組みに向けて調整中です。このように積極的な施設が増えてきたのは、すでに先行してサービスが行われており、サービス内容が可視化できるようになったので、施設にとってのメリットがわかりやすくなったからだと思います。この好循環が今後も継続できればと思います。障害者支援施設、ボランティア、図書館が連携し協働して、このサービスを開始することができましたが、知的障害者にとっては、まだまだ限定的な図書館利用でしかありません。当館のサービス内容が充実していくことに努めるとともに、全国の図書館でも同様のサービスが広がっていくことを願っています。（西野 貴子）